

9

華岡青洲の一番弟子・鎌田玄台の容貌について

土手健太郎¹⁾, 長櫓 巧²⁾¹⁾愛媛大学医学部附属病院 集中治療部, ²⁾愛媛大学医学部附属病院 麻酔科

1. はじめに

鎌田玄台は華岡青洲の高弟で、華岡流の麻酔法、外科手術法を全国に広め、日本の麻酔科学史上重要な働きをした人物である。玄台は、麻酔科学史上2つの世界的な業績を残している。その一番目は、1839年に世界で最初の臨床麻酔の教科書である麻沸湯論を著した事である。二番目は、玄台が、1840年に出版した外科起廃図譜の中に、手術の全体像を描いた図譜が2葉あり、これは世界で初めて全身麻酔下の手術を図示したものである。ただ、残念なことに、玄台の容貌が明らかでない。そこで、今回彼の容貌を再現したので、その経緯とともに報告する。

2. 容貌再現の経過

玄台の肖像画は、呉秀三著“華岡青洲先生及其外科”に彼の経歴と共に掲載されていた。この著書は、華岡青洲およびその弟子たちについて記述した最も重要な資料の一つで、1923年8月吐鳳堂書店から上梓された。しかし、著者らが玄台についての記述に検討を加えたところ、玄台のものとして掲載された肖像画が、玄台の父親の明澄の画像であることが明らかとなった。この肖像画の作者を同定することはできないが、肖像画の裏には明澄の画賛が書かれており、明澄の肖像画であることは間違いない。呉秀三が大洲と東京で資料のやり取りをするうちに同じ玄台を名乗った正澄玄台（二代目）と明澄玄台（初代）を誤ったものと考えられる。

“華岡青洲先生及其外科”の玄台の肖像画が誤りであることが分かった2010年の時点では、玄台の肖像画や画像は見つかっておらず、彼の容貌については不明であった。ところが、2011年になって、愛知県の岩瀬文庫に保管されていた古書のなかに、“外科起廃図譜”が見つかった。それまでに見つかった“外科起廃図譜”は著者の調べた限りでは1部しかなく、この数十年閲覧はされていなかった。“外科起廃図譜”は、天保11年（1840）に、玄台によって著された外科治療症例集である。この書は、序文、凡例、目次、65枚の図譜から成り、腫瘍の切除や外傷の修復など、病症と治療法が簡潔な漢文と図で解説してある。この図譜の殆どが手術を受けた患者のみを描いているが、その中に、患者以外の人物が描かれている図譜が6葉ある。この手術中の光景には、術者が描かれている。この術者が玄台自身である事は明らかである。玄台の術者としての容貌が右正面から4場面、側面から2場面に見ることができる。現在、この図は彼の容貌を伝える唯一のものである。そこで、リアルフェイス社（滋賀県大津市）に依頼し、この図譜の玄台の容貌をコンピュータで立体化し、それをもとに精密な顔面像を作成した。

3. 結論

呉秀三著“華岡青洲先生及其外科”の中の鎌田玄台の肖像画が玄台の父親の明澄のものであることを明らかにし、それにより不明となった玄台の容貌を、外科起廃図譜から再現した。百数十年の長い間にわたり、誤伝承されたり不明であった玄台の容貌を明らかにできた事は、日本の医学史上十分な学術的価値があると考えられる。